

マレーシアに滞在し始めて今日で丁度一ヶ月が経った。何となく講義にも慣れてきたので今日は筑波大学とMJIITの講義や生徒の違いについて気がついたことを独断と偏見でまとめてみようと思う。

・国際色はそれほど豊かでない？

大学で他にあった留学生は日本人の他にトルコ人、中国人、韓国人とカンボジア人とアジア系が多く、欧州やアメリカから来たという学生は未だ見かけていない。マレーシア大学を訪れた時にはオーストラリアからの留学生に会ったので他の大学はまた違うのかもしれない。私立と公立の違いも大きいだろう。また既に経験したように、金銭面で留学生が冷遇されているというのものもあるかも知れない。(大学宿舎の費用の違い等。先日マラヤ国立大の生徒に聞いたところ彼女の寮費は月200RM程度だそうだ。以前の家賃の1/6だ。)

・教室の人種構成

多民族国家であるマレーシアにはマレー系、中国系、インド系、ネイティブのマレーシア人がいる、が教室では基本的にマレー人が多勢を占めている。中国系やインド系は居ても数名程度だ。

ブミプトラ政策によりマレー人は優遇されており、(具体的には奨学金の審査等。)彼らは比較的容易に進学が可能だそうだ。

・女学生が多数

MJIITのあるUTMはバリバリの理系大学だが、驚いたことに生徒の多数を女子が占めている。これは特にこの大学に限ったことではなく普遍的であるらしい。(ちなみにお世話になっている研究室に14人いる院生達は皆女性で、男は自分一人である。)数名に理由を聞いてみたが日本ほど大卒に就職の保証や信頼が無かったり、女性の方が勉学を好むなどの回答を得た。

・時間にルーズ

当然教授にもよるが定刻通り始まる講義は少ない。また終わりも特に厳密では無い。お陰で次の講義に遅れるも次の講義はまだ始まってなかったりしたりする。

・講義変更が頻繁

講義のキャンセルや変更が頻繁にある。授業が始まる5分前に知らされるとかザラである。

・講義にネットシステムを取り入れている。

elearningというシステムが取り入れられており、ネットを介した課題の配布&提出、講義資料の配布が基本である。到着が遅れelearningへの登録が遅れこの一ヶ月は資料を貰うのにも課題を提出するのにも一苦労だったが一度登録されれば非常に便利だ。このシステムは筑波大でも全学群に適応されれば良いと思う。

・講義への参加態度

教授からの問いかけについての自発的な発言が自分のいた学部と比べて多く感じる。自分の意見を述べたりその場で議論を開始したりするわけではないが、教授の質問に対し答えを生徒が答え、お互いに理解度を確認しながら進めていく形だ。(例 教授：△△とは何か。生徒：○○です。)また当然といえば当然だが理由なく欠席する生徒は居ない。

・課題が多い。

課題が多い。クイズ(テスト)も頻繁にある。この辺は大学というよりも高校の授業を思い出した。

・実践が多い。

3年になると企業にオファーを取り工場のプラントを見学しその内容をレポートする課題が出されるなど今まで学習してきた事の社会への応用を意識した講義が増えてくる。またここ

の大学の特徴として卒業要件に企業へのインターンシップが含まれており、4年になると industry training という講義で奨学金という形で給付金を受けながら日本企業にインターンシップに行くことができる。この制度は非常に素晴らしいと思う。

色々と箇条書きしてみたが日本とは中々思ったよりも沢山の違いがあり見習う点も多いと気付いた。またこれからも引き続き新たな発見を探していきたい。 小倉

